

オリンピック・パラリンピック教育とは

オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値を学ぶことに加え、2020年に向けて文化学習や国際交流等を教科横断的に展開

- ◆オリンピックやパラリンピックそのものをテーマや教材とした教育・学習、大会の歴史や精神、スポーツに親しむ体験
- ◆東京大会開催に向けて、変化していく社会への対応力やホスト国としてのおもてなしの心、国際交流や異文化の理解
- ◆体育やスポーツだけでなく、国語や社会・英語・数学・芸術の各科目等での幅広いオリンピック・パラリンピック教育の全国推進



(提供：京都新聞COM)

本事業における主な取組

教員セミナーの実施
推進校教員向けの研修を実施
国内外の先行事例等を紹介

推進校の学校現場での実践
セミナーの内容を受け、各校の特性や教育目標に応じた実践

振り返りワークショップ
各校での実践事例の共有を通じて改善の検討、教育効果の検証を行う

⇒大学・行政・アスリート・民間企業・地元メディア等が一体となってオリンピック・パラリンピック教育の推進とムーブメントの醸成を図る

地域コンソーシアムの設置
推進校と連携を図りながら地域が一体となってオリンピック・パラリンピック教育に取り組むためのコンソーシアムの設置

市民フォーラムの開催
幅広い層に向けたオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの発信

メディアを活用したムーブメントの波及
地方新聞、教育専門誌等メディアを活用し、地域全体へ、学校現場発のオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの波及を図る



京都府における オリンピック・パラリンピック教育推進の方向性

2021 今後5年間のオリンピック・パラリンピック教育の推進において、「スポーツの力」を実感させるとともに、一人一人に豊かな「スポーツごころ」を育み、スポーツ文化の広がりにつなげる。

2020 ・京都府の取組を全国のオリンピックムーブメントへ繋げる。
・2020年以降のスポーツ文化と共生社会創設のレガシーを目指す。

- 2019
- 【Ⅰ】スポーツへの誘い・自己肯定感の醸成
 - 【Ⅱ】障害者や高齢者への理解・共生社会の形成
 - 【Ⅲ】スポーツへの関心や競技力向上・スポーツボランティアへの参画
 - 【Ⅳ】オリンピック、パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
 - 【Ⅴ】オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

- 2016
- オリンピック・パラリンピアンとの交流
市民フォーラム等の開催
 - 高校運動部活動生徒と特別支援学校生や地域の高齢者とのスポーツ交流
 - 体育系設置校を中心とした専門科目等を通じた関連学習
府立高校体育系連絡協議会等での講演会の実施
 - オリンピック・パラリンピック讃歌による文化とスポーツの融合
文化的イベントとのコラボ
 - 異文化理解、国際交流を通じた「おもてなしの心」の醸成

2015

- ・振り返りワークショップ・事業概要のまとめ研究報告書作成（2月）
- ・推進校教員セミナー・推進校を中心に事業開始（10月～）
- ・推進校の決定（9月）
- ・京都府オリンピック・パラリンピック教育推進プロジェクト・推進協議会発足（8月）
- ・平成27年度の具体的な取組概要策定（8月）
- ・全体構想・案の策定（8月）

2015 筑波大学から「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」を受託（7月）

市民フォーラムの開催や推進校の取組紹介等で広く府民に発信する等広報活動を推進する

京都府オリンピック・パラリンピック教育 推進事業の概要



スポーツ庁委託
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業

京都府教育委員会

平成27年度から京都府教育委員会では、国際オリンピック委員会公認のオリンピック研究センターを有する筑波大学と協力して、学校や地域におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた効果的手法について実践的な調査研究活動を実施しました。

オリンピズムの理解に基づく教育プログラムの理念

IOC（国際オリンピック委員会）
中心的な価値：「卓越」「友情」「敬意／尊重」

- オリンピック精神の教育的価値
- ☆努力の喜び (Joy of Effort)
 - ☆フェアプレー (Fair Play)
 - ☆他者への尊敬 (Respect for Others)
 - ☆卓越性の追及 (Pursuit of Excellence)
 - ☆バランスのとれた身徳知 (Balance between Body, Will and Mind)

京都府におけるオリンピック・パラリンピック教育推進の方向性

Sport is a force for good.
今後5年間のオリンピック・パラリンピック教育の推進において、「スポーツの力」を実感させるとともに、一人一人に豊かな「スポーツごころ」を育み、スポーツ文化の広がりにつなげる。

参考：「スポーツごころ」…日々の生活の中で「よしっ!」「さあ!」「やってみよう!」という前向きで積極的な気持ちの「心のありよう」こそが「スポーツごころ」です。
この「スポーツごころ」を「芽吹かせ」「広め」「深め」「高める」ことが生涯スポーツの振興に繋がると考えています。私たちが求めている「スポーツごころ」には、「感動」「楽しみ」「向上」「健康」「挑戦」「つながり」「公正」の7つの要素があります。
〔京都府スポーツ推進計画(平成26年3月)〕

平成27年度推進校の主な取組

I 児童生徒とオリンピック、パラリンピアン等との交流



パラリンピックメダリストとの交流

- 河合純一氏（水泳）が、高校生に人生及び競技に対する心構えを講演。
 - 高校の水泳部、陸上競技部、スポーツ総合専攻コースの希望者と盲学校生及び特別支援学校生による水泳交流会。
 - 水泳交流会によるふれあいを通して、他者への共感や思いやりの心を育てることがねらい。
- 【推進校】綾部高校



オリンピックやトップアスリートとの交流

- 奥野史子氏（シンクロナイズドスイミング）、藤田慶和氏（ラグビー）による講演。
 - 佐野優子氏と北嵯峨高校：大村加奈子教諭（ともにバレーボール）によるスポーツトーク。
 - 朝原宣治氏（陸上競技）らによる小学校への出前授業、山口有希氏（陸上競技）による小学校陸上運動交歓記録会での実技指導や交流、志水見千子氏（陸上競技）参加による中学校校内マラソン大会、岩尾幸美氏（ホッケー）による小学校・中学校・高校ホッケー部対象の講演及び実技指導、小野誠治氏（卓球）による聾学校卓球部への指導。
 - 「さあやってみようというスポーツごころを育成」、「一流選手の指導のもとで、自分の記録に挑戦することによって、自信や希望をもって何事にも積極的にチャレンジできる心を育成」、「国際的な視野を持ちグローバルに活躍できる人材を育成」することなどがねらい。
- 【推進校】高倉小学校、西賀茂中学校、洛南中学校、井手小学校、多賀小学校、泉ヶ丘中学校、蒲生野中学校、瑞穂中学校、須知高校、北嵯峨高校、聾学校



小中高生と車いすバスケットボール選手との交流

- 車いすバスケットボールチーム「KYOTO UPS」の選手と交流。講演、実技指導及び競技体験。
 - 「障害者の生活の様子や願いの理解」、「障害者と共に関わり社会に生きる人間として、自分たちのできることや接し方を考えるとともに、障害者から学び、自分も前向きに生きようとする意欲を持つこと」、「競技体験などを通してパラリンピックを身近に感じること」などがねらい。
- 【推進校】井手小学校、大宅中学校、洛陽工業高校、日吉ヶ丘高校、塔南高校

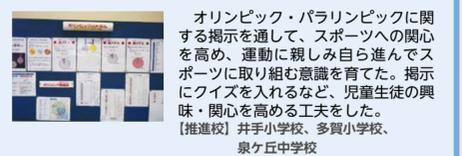


高校フェンシング部員と車いすフェンシング選手との交流

- 高校フェンシング部の部員が車いすフェンシング日本代表選手らと交流。選手によるルール等の講義、パラリンピックに向けた意気込みや目標などについての講演、実技指導、試合形式の練習など。
 - 「パラリンピック種目への理解」、「スポーツの価値や効果の再認識」、「国際的な視野を持って世界の平和に向けて活躍できる人材の育成」がねらい。
- 【推進校】乙訓高校

〈感想文より〉 ●厳しい練習をやりきった時は、「根拠ある自信が生まれる」という言葉はすごいと思った。
●先生も平凡で自分に自信がない時代があったことに驚きました。平凡な私でも努力すればオリンピックの舞台に立てるかもしれないと勇気づけられました。

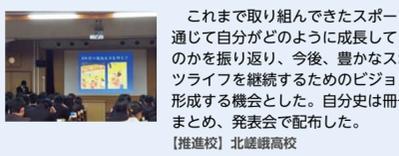
オリンピック・パラリンピック掲示板



オリンピック・パラリンピックに関する掲示を通して、スポーツへの関心を高め、運動に親しみ自ら進んでスポーツに取り組む意識を育てた。掲示にクイズを入れるなど、児童生徒の興味・関心を高める工夫をした。

【推進校】井手小学校、多賀小学校、泉ヶ丘中学校

自分史の作成・プレゼンテーション



これまで取り組んできたスポーツを通じて自分がどのように成長してきたのかを振り返り、今後、豊かなスポーツライフを継続するためのビジョンを形成する機会とした。自分史は冊子にまとめ、発表会で配布した。

【推進校】北嵯峨高校

II 共生社会の形成

中高生と特別支援学校生とのスポーツ交流

- 「障害の有無にかかわらず、様々な人々とのスポーツによる交流を通して、他者を理解・尊重する資質や能力を身に付け、共生社会を実現する人材を育成すること」、「オリンピック・パラリンピックをはじめとするスポーツの価値や効果を理解し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てること」などがねらい。
 - 交流種目の事前学習や交流上の留意点に関する事前説明。
 - 外部の競技大会への生徒の出場を目標とする特別支援学校もあった。
 - 一般生徒交流では、パラリンピック種目であるボッチャ、卓球のほか、卓球バレー、フロアバレーボール、ドッチビー、フライングディスク、バスケットボール、ソフトボール、ダンスで交流。
 - 部活動交流ではソフトボール部、陸上競技部、卓球部が交流。
- 【推進校】
（一般生徒交流）京都八幡高校、加悦谷高校、向日が丘支援学校、八幡支援学校、南山城支援学校、与謝の海支援学校（部活動交流）西城陽高校、京都八幡高校、加悦谷高校、聾学校、宇治支援学校、城陽支援学校



高校生が盲学校で視覚障害者の手引き歩行の訓練

- 高校生が盲学校を訪問し、視覚障害者の手引き歩行について講習を受け、歩行訓練を実施。
 - 障害者の困難さを体験し、共生社会を実現させるために何ができるか考えを深めることがねらい。
 - 後日、再び高校生が盲学校を訪問。フロアバレーボールで交流。ボールが弾む音を聴いたり、仲間を頼りにともにプレー。パラリンピックへの関心が高まる。
- 【推進校】北嵯峨高校



世代間交流

- 高校生が高齢者対象スポーツ教室「昔遊び」を企画・運営。内容は、お手玉、メンコ、オセロ、将棋、けん玉、あやとり、こま回し。小学生など地域の子どもの参加を募り、世代をこえて交流。
 - 高校生が学校オリジナルの体操をアレンジして地域へ公開。また、シニア向けにもアレンジして高齢者に指導し、一緒に成果を発表。
 - 高校生が教員と地域の小学校を訪問し、陸上競技「走り方教室」を実施。
 - 共生社会の実現に向けて主体的に取り組む意識や態度を育成することなどがねらい。
- 【推進校】北嵯峨高校、乙訓高校、網野高校



ダウン症児者対象レスリング教室での交流

- 高校生レスリング部員とダウン症児者が月1回の練習で交流。
 - 普段接する機会のない高校生とダウン症児者のレスリング交流を通じて、「互いを尊重しあい、広い視野や多様な考え方を持つこと」、「ダウン症児者の自立や社会性の育成」、「密接な絆をつくり、心身の発達を促すこと」がねらい。
- 【推進校】京都八幡高校



〈感想文より〉 ●スポーツは、絆を深め、人と人をつなぐ…。ここを前向きにしたり、リフレッシュする等、たくさんよいことがある…。 ●勝ちを共に喜んで、負けを共に悔しがり、一緒に白熱した時間を過ごすことができました。ボッチャでは活躍できなかったけど、支援学校の生徒たちにカバーしてもらい勝つことができました。 ●初めてのフライングディスクで、きちんと投げられるか心配でしたが、輪に入ると「ナイス!」、入らなくても「おいしい!どんまい!」など声をかけあうことができ、とても盛り上がったし、楽しむことができました。 ●緊張しましたが、後半は全員で声を出すことができ、たくさん的人数で実践的な練習もでき、とても楽しい時間でした。 ●教えるというよりは高齢者さんと学んでいくような感覚で、すごく新鮮な感じがありました。 ●（高齢者）年が離れているのにとても自然体で優しくリードしてもらい嬉しかったです。よけいに笑顔になれました。 ●（高齢者）高校生のみなさんとご一緒にできて幸せでした。



III スポーツへの関心や競技力向上 ～体育系設置高校を中心に～

卒業生オリンピアン等による実技講習会

- 中田有紀氏（陸上競技）、下川真良氏（ハンドボール）、大山加奈氏（バレーボール）、平松祐司氏（陸上競技）による講演会、講習会や実技指導。
 - 競技への関心を高め、競技力の向上を図るとともに、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材を育成することなどがねらい。
- 【推進校】洛北高校、鳥羽高校、西城陽高校、久御山高校



京都府立高等学校体育系設置校（7校）による研究発表大会

- 各校の代表生徒による卒業研究発表。
 - 各校ゆかりのオリンピアン、トップアスリートらをパネリストに迎えて「2020東京に向けて、スポーツの楽しさを考える」をテーマにシンポジウム。パネリストがスポーツの魅力を語るとともに、2020年東京オリンピックを担う世代の後輩にアドバイス。
 - 竹下佳江氏（バレーボール）による講演も実施。スポーツの未来を考えた。
- 【推進校】洛北高校、鳥羽高校、乙訓高校、西城陽高校、久御山高校、綾部高校、加悦谷高校



スポーツ有識者から学ぶ

- スポーツ有識者による講義、講演、実習など。
 - テーマは、「オリンピックと最先端スポーツ科学」、「オリンピック選手へのマルチサポート」、「フェアプレーを考える」、「ソフトテニスナショナルチームの下半身トレーニング」、「EAT TO WIN・トレーニングと食事」。
 - 「オリンピック・パラリンピックに関する知識・理解・関心や競技力の向上」、「スポーツ文化の広がり」に貢献する人材の育成」などがねらい。
- 【推進校】乙訓高校、西城陽高校



V 国際理解

交流から体験的に学ぶ

- 海外からの留学生を招き、外国の文化、生活習慣などを体験。
 - JICA関西より、青年海外協力隊OB・OGを招き、世界の現状と国際貢献の在り方について学習。
 - ユニセフ協会から講師を招き、世界の子どもの現状についての体験的学習。
 - 京都の伝統文化財を訪問。海外発信する視点でそのよさをまとめる学習。
 - 国際交流・海外派遣事業に参加の中学生が小中学校や地域で報告会。
 - 「ちがいを尊重し認め合ったり、おなじに感動し喜び合う実践的態度の育成」、「国際社会に貢献する態度の育成」、「おもてなしの心の育成」などがねらい。
- 【推進校】南太秦小学校、泉ヶ丘中学校



オリンピック・パラリンピック給食週間

- オリンピック・パラリンピック開催国及び我が国の伝統的な料理を給食で提供。
 - 事前学習として6つの国の国旗・人口・首都・言語・食文化・スポーツ等を掲示等により紹介。アンケートをもとに給食週間の献立を決定。
 - オリンピック・パラリンピック給食に関連した話を、町内小学校の朝礼で栄養職員が実施。
 - 放送委員会の児童生徒による給食時の放送の実施。
- 【推進校】井手小学校、多賀小学校、泉ヶ丘中学校



〈感想文より〉 ●外国の方々との交流を通して学んだことは、知ることの大切さとコミュニケーションの大切さです。 ●外国の方々自分の国を誇らしく紹介される姿を見て、日本や京都のよさをもっと知りたくなりました。

IV オリンピック・パラリンピック讃歌

古典和歌と現代短歌の創作を通した、京都ならではのスポーツと文化の融合

- 専門家による作歌指導
 - ・古典和歌の部：古来受け継がれてきた冷泉流の和歌を冷泉貴実子氏から学び、「若草」を兼題とした和歌を創作し、生命の躍動を日本の伝統的な季節感、美意識に則って表現した。
 - ・現代短歌の部：「スポーツ」をテーマとした短歌の創作を歌人永田紅氏から学び、スポーツのイメージだけにとらわれない柔軟な発想と表現を用いた短歌の創作に取り組んだ。
- 【推進校】鳥羽高校



府民対象イベント「教育レガシー共創フォーラム2016 in 京都」の開催

- オリンピック・パラリンピック讃歌の発信
- ・創作和歌の披露：鳥羽高校披露研究部による同高優秀作品の披露（講評 冷泉貴実子氏）
- 佐保姫の春の衣の若草をほのかに照らす朝の光よ 金田望美
- 萌え出づる青む若草あけぼのに春雨晴れてほのぼの霞む 河合柚香
- 春雨に染むる若草浅緑まだはつかなるふるさとの道 三原亜美
- 雪はとけ昨年の枯葉を分け出でて春の光に萌ゆる若草 犬丸風葉
- 残る雪春の光に照らされて萌ゆる緑に野辺は色づく 野口夏奈
- ・創作短歌の発表：「京都府高校生短歌コンクール」の優秀作品表彰
- 府内の高校・特別支援学校の生徒を対象としてスポーツを「する」「観る」「支える」観点からの作品を募集し優秀作品を表彰（講評 永田 紅氏）
- 最優秀賞 笛が鳴りコートに駆け出す足音を近くて遠い此処から聴く 倉田葉里（紫野高校）
- 優秀賞 才能が有るか無いかはわからないいつみかさねれば負けないきみと 和所鈴奈（城陽支援学校）
- 全国へ二人で決めたその日からスバイクはもう十一足目 日隈大介（南陽高校）
- ミスをして仲間の励まし助かるが声の分だけ胸痛くなる 廣田大寛（綾部高校）
- 勝ばうれしくて負けるど悲しい私はとても単純で美しい事をしている 岡本えい（紫野高校）
- ・基調講演「オリンピックと文化」 真田 久氏（筑波大学教授）
- ・トークショー「より美しく～スポーツと表現力～」 石黒由美子氏（北京五輪シンクロ競技代表）



（提供：京都新聞COM）



（提供：京都新聞COM）

応募人数 1567名
応募総数 2415首

女性スポーツフォーラム

- 基調講演「女性アスリートとスポーツをサポートする人たち」
- 講師：田中ウルヴェ京氏（スポーツメンタルトレーニング上級指導士、ソウル五輪シンクロナイズドスイミングデュエット銅メダリスト）
- シンポジウム
- コーディネーター：川原貴氏（国立スポーツ科学センター長）
- パネリスト：田中ウルヴェ京氏（ソウル五輪銅メダリスト）、大村加奈子氏（アテネ・北京五輪出場：バレーボール）
- 藤原秀規氏（アジア大会水球女子監督・水球）、水野加奈子氏（京都女性スポーツの会長・テニス）
- 河合美香氏（龍谷大学准教授：スポーツと食の研究）、甲村弘子氏（こうむら女性クリニック院長）
- 柏木麻希氏（アジアジュニア優勝・日本高校記録保持者：ウエイティング）



◆平成27年度 推進校（31校）◆

- | | |
|--------|---|
| 小学校 | 京都市立高倉小学校、京都市立南太秦小学校、井手町立井手小学校、井手町立多賀小学校 |
| 中学校 | 京都市立西賀茂中学校、京都市立洛南中学校、京都市立大宅中学校、井手町立泉ヶ丘中学校、京丹波町立蒲生野中学校、京丹波町立瑞穂中学校 |
| 高等学校 | 京都府立洛北高校、京都府立鳥羽高校、京都府立北嵯峨高校、京都府立乙訓高校、京都府立西城陽高校、京都府立京都八幡高校、京都府立久御山高校、京都府立須知高校、京都府立綾部高校、京都府立加悦谷高校、京都府立網野高校、京都市立洛陽工業高校、京都市立日吉ヶ丘高校、京都市立塔南高校 |
| 特別支援学校 | 京都府立聾学校、京都府立向日が丘支援学校、京都府立宇治支援学校、京都府立城陽支援学校、京都府立八幡支援学校、京都府立南山城支援学校、京都府立与謝の海支援学校 |